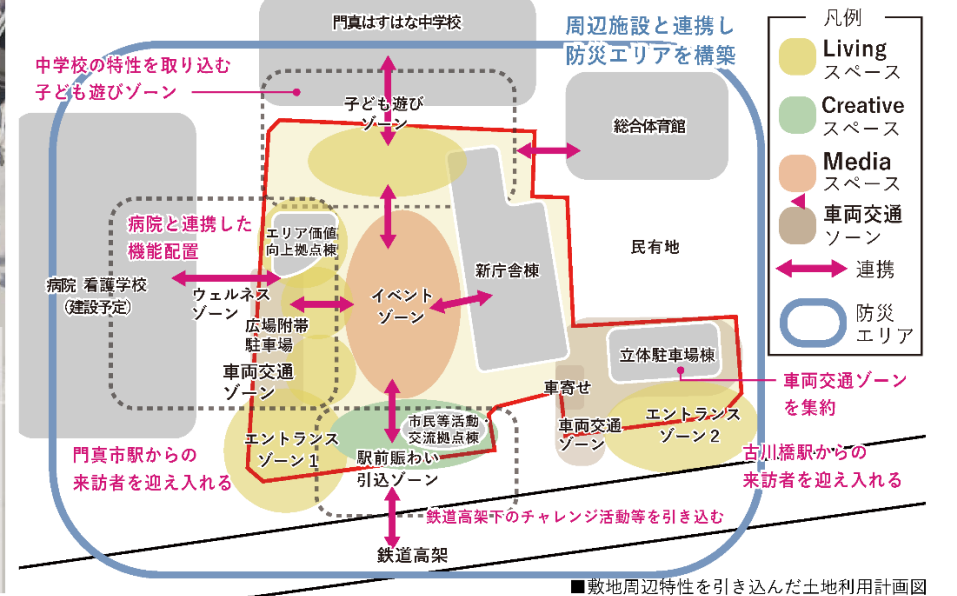
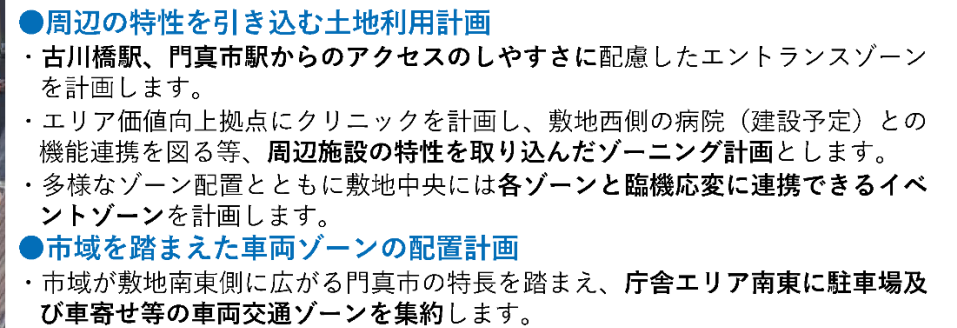


1 周辺環境の特性を踏まえた庁舎エリア内の土地利用計画



3 門真市の「コミュニティ・ハブ」

●基本計画～運営まで一貫した庁舎コンセプト

基本構想が示すコンセプト「みんなで描き、みんなでつなぐ、このまちがキャンパスに」を実現するため、庁舎エリアを5つの結節点（エリア、産業、市民・企業・行政、交通、市職員）を生み出す「**門真市のコミュニティ・ハブ**」と位置付けます。

コミュニティ・ハブ実現のために、5つの結節点を生かす庁舎エリアの3つの役割として、Living/Creative/Mediaを提案します。



基本計画段階 基本設計・
実施設計段階 エリアオープン
準備段階 運営段階

①計画・設計への反映 ②知識・スキルの継承 ③実際の運営に反映

プレイヤーの発掘 育成 実践・協働

■つかう人を巻き込む整備計画のプロセス

- ・計画段階から「つかう人」を巻き込み、少し先の庁舎エリア及び周辺エリアの将来イメージを共有しながら、庁舎や広場整備の計画及び設計へ反映します。
- ・地域から**プレイリーダー**を発掘し、**知識・スキルを継承・育成**することで、地域参画型の運営が実現します。
- ・各エリアのまちづくりの核となる人・組織を支援する**統合支援機能**として、庁舎エリアの運営を通じて、門真市全体のまちづくりを活性化します。

Living/Creative/Mediaを元にした運営方針として、庁舎を周辺エリアとの統合支援機能と位置付け、街全体へ賑わいや活動が波及していく仕組みをつくりまします。

- 波及の仕組み**
-
- 【庁舎エリア】**
- 統合支援機能**
- ・庁舎／市民等活動・交流拠点
 - ・広場
 - ・市民等活動・交流拠点棟
 - ・エリア価値向上拠点棟
- フィールド**
- 庁舎エリア
 - 門真市駅前エリア
 - 旧北小エリア
 - 京阪古川橋駅エリア
- 統合支援機能ダイアグラム

5 門真の活気がつくるエントランス拠点としての景観

●門真らしさを体現するおおらかな景観づくり

新庁舎棟は門真はすなな中学校や京阪電鉄高架橋の高さと合わせた低層とします。

3つの建物によって広場を囲むスカイラインを形成し、エリア一体の景観の調和を図ります。



■京阪電車から庁舎エリアを見渡す

●市民とともに作り上げるファサードデザイン

キャンパスウィンドウには気候や季節を考慮し、カーテンを設ける計画とします。市民や職員とともにカーテンを開け閉めするイベントを開催することで、新庁舎棟のファサードは季節によって変化する門真の新しい季節の風物詩となります。

全長約120m キャンパスウィンドウ



■西側ファサード〜キャンパスウィンドウ〜(春の様子、カーテン開)

8 市民を守り、市民に長く親しまれるレジリエントな庁舎づくり

●市民が頼りにする安心で安全な庁舎

あらゆる災害に強い敷地全体が災害対策拠点になる5つの工夫

- ① 多方面からのアクセスを考慮した施設配置
- ② 防災広場全体を活かす周辺施設との連携システム
- ③ 災害対策本部の強化のための室配置
- ④ フェーズフリーな施設構成により災害時に柔軟に機能転換する
- ⑤ 日常から防災情報を発信し、市民一人ひとりの防災意識を高める



6 シビックコンコース × 市民等活動交流

●シビックコンコースの3つの役割

L Living

まちに開かれた多様性と寛容性のある居心地の良いリビング空間を計画します。

C Creative

みらいの門真を創造する活動の中心となる賑わい拠点を計画します。

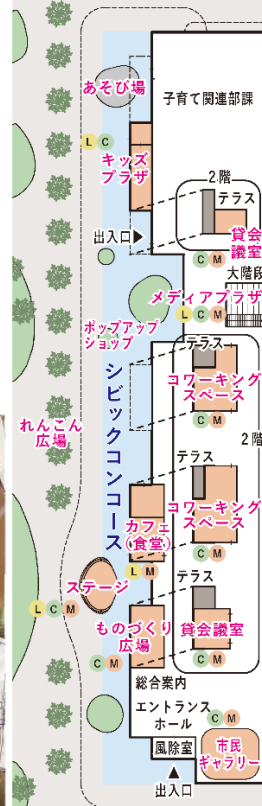
M Media

門真のみんなの情報を受信・発信し、人と人をつなぐ情報拠点を計画します。

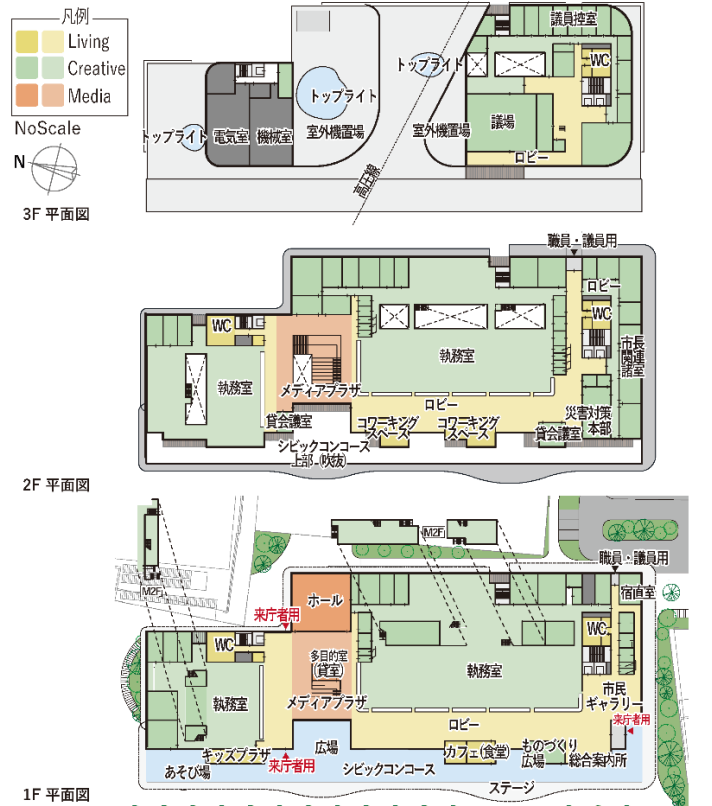
庁舎と広場をつなぐシビックコンコースは、あらゆる活動や交流の相乗効果を生み出します。また、市民・企業・行政すべての人の居場所を作り、あらゆる活動を支え、発信する環境を担います。



■シビックコンコースでの活動・交流



7 誰もが使いやすい明確なゾーニング計画



9 実績豊富な企業と地域を知り尽くした企業によるマネジメント体制

設計と運営の両実績を持つマネジメント・アーキテクツが関係者と密に連携を取り、設計チームと運営チームの情報を円滑し共有/計画を統合します。企画・設計から運営まで一貫通貫で取り組み、エリアの魅力と価値を再編します。

